

私を育てた  
あの時代、あの出会い

第14回

# 生徒を、学校を元気にする術を その言葉と行動に学んだ

愛知県 岡崎市立翔南中学校校長 加藤政幸 KATO MASAYUKI

教師は日々、さまざまな働き掛けの中で生徒を育てる。そして教師は、共に働く仲間との出会いの中で育っていく。出会いから学んだ教育の原点、そして次代を担う若い世代に伝えたい不易を、加藤校長が語る。

生徒が自分をどう思っているか  
それを知ることが生徒理解

私は大久保慎一先生と2度、同じ学校に勤務し、先生から教師としての全てを教わりました。

初めての出会いは私の初任校です。大久保先生は体育、私は数学と担当教科は違いましたが、当時32歳の大久保先生は、同じ年に赴任した新米教師を気に掛けてくれたのでしょう。他の先生も交えてよく飲みに連れて行ってくれました。店は必ず学区内。「教師が学区内で物を買ひ、食べて飲むことで地域とのつながりが深ま

り、学校を応援してくれるようになる」という考えからです。そして、店で、授業の考え方、部活動の意味などさまざまな話をしてくれました。

中でも学んだのは、生徒と向き合う姿勢です。先生は礼儀や態度にとっても厳しかったのですが、生徒から厚い信頼がありました。気になることがあればすぐに家庭訪問をし、生徒をちよつと連れ出してじっくり話をする。自分の給食の配膳は学級内で疎まれていたような生徒に1年間任せ、部活動ではレギュラー以外の生徒ほどよく声を掛けていました。私が生徒指導で悩んでいると、先



かとう・まさゆき 専門教科は数学。岡崎市立北中学校赴任後、岡崎市小中学校教職員組合執行委員長を2年間務める。赴任先の各校で野球部の顧問を務め、翔南中学校でも顧問に名を連ねる。

1979 (昭和54)  
岡崎市立竜海中学校  
に新採で赴任。  
大久保慎一先生と  
出会う

1987 (昭和62)  
岡崎市立岩津中学校  
に赴任

1993 (平成5)  
岡崎市立矢作北中学校  
に赴任

1999 (平成11)  
岡崎市立北中学校  
に赴任。  
校務主任を務める。  
同年、大久保先生も  
校長として赴任

北中学校での日々や、  
大久保先生の  
「校長メモ」を  
それぞれ冊子にまとめた

2004 (平成16)  
岡崎市立矢作中学校  
に教頭として赴任

2008 (平成20)  
岡崎市立城南小学校  
に教頭として赴任。  
翌年、校長に昇任

2011 (平成23)  
愛知県教育委員会  
西三河教育事務所  
に勤務

2013 (平成25)  
新設校の  
岡崎市立翔南中学校に  
初代校長として赴任

生はこう言いました。「生徒を外から見てどういう子かを判断するのはなく、生徒が自分自身をどのようになっているのかを、教師が分かっていることが真の生徒理解だ」。

生徒の見えない部分をどうすれば理解できるのか。私は生徒の生活ノートを毎日読み、生徒が2ページ書いてきたら、私も同じ分、赤ペンで思いを書きました。自分が心を開かなければ生徒も心を開かないと思い、学級通信に自分の中学時代を綴りました。そうすることで生徒を本当に理解できたかどうかは分かりません。でも、生活ノートが年3、4冊に上るほどやりとりをした生徒がいたのは、そうした努力を感じてくれたからだと思うのです。

### 毎日の「校長メモ」に 指針と勇気をもたらした

2度目の出会いは、大久保先生が校長、私が校務主任としてやはり同じ年に赴任した学校です。いわゆる荒れの状態にあり、立て直しのため教職員が半数入れ替わった年でした。

第1回の職員会で、大久保先生は「やりましょう。やってください。全ての責任は私が取ります」「これ

だけの仲間が集まって、出来ないこととはない。出来ないのは相手が強いからではなく、私たちの努力が足りないと思いませんか」と言われまされた。その言葉に職員室の空気は明らかに変わりました。そして、先生は自ら行動で示されました。その1つは文化祭でのソーランです。生徒に学校への誇りを持たせたいと提案。自ら先進校を視察し、専門家を講師に招きました。生徒は少しずつ真剣に取り組むようになり、ついには地元の祭りにも参加。地域の人々から温かい拍手をいただいたのです。

また、大久保先生は学校での出来事を通して、教育の本質、心構え、あるべき教師像を厳しく、時にユーモアを交えて伝える「校長メモ」を毎日配られました。それを読み、実践することは日々の研修となりました。メモは先生方の努力が認められる場でもありました。大久保先生は朝6時に学校に来て、掃除をしながら校内を点検されていました。腰を痛めたため、私が一緒に回ることにしました。そのことを「2人で学校のことを話しながら回っている」と、自然と勇気が出る。同志というものだろう」と記されたのです。

「学校が一枚岩になることが大切だ」とよく言いますが、この時まさに全教職員が校長を中心に1つとなり、生徒と向き合っていたのです。

私は今年、新設校の初代校長に就任しました。生徒が喜んで来てくれる学校、先生が働きたくなる学校、地域の人から応援される学校にすることが目標です。開校式ではうれしいことがありました。「来校者は皆、校舎や校庭をすごいと褒めてくれます。いつか中身を褒められるように

したいですね」と言うと、生徒は大きな声で「はい」と返事をしてくださいました。頼もしく感じました。そして、私も教職員の初顔合わせの日から毎日、「校長つうしん」を配付しています。「通信」と「通心」の意味を込めて「つうしん」としました。

1年間で全教職員を登場させるつもりです。生徒と直接向き合うのは現場の先生方です。その先生の成長を支えるのが私の役目と心得、新しい学校づくりに邁進していきます。

## 「生徒を知ろうとする教師の努力を 生徒は感じ取り、心を開く」

